

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台 100 周年記念誌資料ーその 3-32-1 岡山天体物理観測所造成工事写真**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 1ー」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 2ー」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目をーその 1ー、2 箱目をーその 2ー、3 箱目をーその 3ーとし、その内容のリストを作成し報告した。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかかってにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の 32 項目の昭和 35 年 2 月 27 日分について報告したい。第 353 号のリストには、

32. 横 A3 なめこ表紙でつづった岡山建設時のアルバム

写真説明 昭和 35 年 2 月 27 日の日付あり

(1)～(12)：日本真空蒸着装置山に上る、デリックにて東側より西側に移動運搬

(13)～(14)：工事現場東、南風景

(15)～(16)：アルミ板加工場及アルミ貼付作業風景

(17)：シャッターの巻き取りモーター架台取付

(18)：メッキ室スチールシャッシュ取付

(19)：足場に上って 36 吋を見る決死撮影

28 日及び 29 日現在の現物スナップお送りします

① ブラインドの格納風景 開閉試験は 5 日頃実施する予定とのこと

② ～③：観測台仮据付及び梯子取付完了

④ ～⑤：蒸着装置据付及運搬風景

⑥ ～⑧：ウオールクレーン取付けスナップ

⑨：展示館工事風景の中の余った土を捨てる処

⑩ ～⑪：36 インチの現在の様子（廻りは土を積む造園中）

28 日の分は見学者風景及メッキ室シャッター取付部大写真 以上 3 月 2 日

3 月 2 日

1. 清水技官を迎え新採用者も交えて石川播磨の川端氏からウオールクレーンの説明を傾聴
2. 36 吋ドーム階下詰所にて石川播磨の川端・須田氏と 74 吋電気配線についての打ち合わせ
3. メッキ装置運搬のための階段の養生
4. 台車のオワンを据付ける

5. 台車のオワンを据付ける
6. 台車のオワンを据付ける
7. メッキ室へエンヤコラサと押す
8. 遂に格納
9. エプロンのアルミ張りの監査 (石) 川端氏
10. スリット最低部を真下から
11. 観測台の梯子を写したのですがよく見えません
12. スリットの下で右から石田、清水、乗本、野口、中務の諸氏
13. ウォーククレーンとその廻り
14. アルミ張替をしたりしたので外観は前とあまり変わりません
15. スリット上部へ登って 36 吋及飯場を写す
16. 階段工事風景
17. というような、工事現場の写真に解説をつけたものが、官舎建設工事を
含め 47 ページにわたってメモ付きのアルバムになっている

とある。今の人には、なめこ紙と言っても分からないと思うが、書類などをとじるときに表紙に使った白い少し厚手の紙である。写真 1 が写真を貼った台紙が綴られたものである



写真 1

先のリストのうち、

写真説明 昭和 35 年 2 月 27 日の日付あり

- (1)～(12) : 日本真空蒸着装置山に上る、デリックにて東側より西側に移動運搬
- (13)～(14) : 工事現場東、南風景
- (15)～(16) : アルミ板加工場及アルミ貼付作業風景
- (17) : シャッターの巻き取りモーター架台取付
- (18) : メッキ室スチールシャッシュ取付
- (19) : 足場に上って 36 吋を見る決死撮影

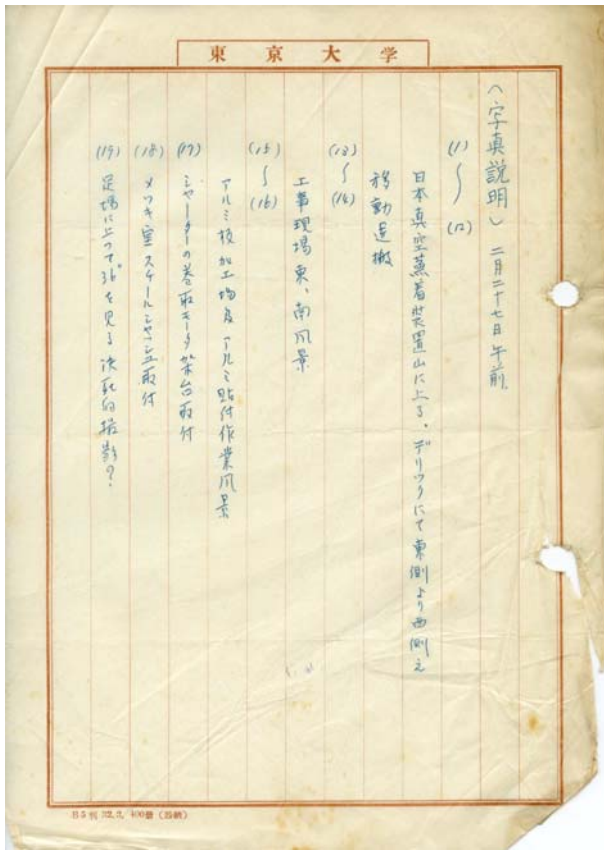


写真 2

について報告する。この綴りの 1 枚目に左のメモ(写真 2)がある。写真説明とあり、(1)～(12)：日本真空蒸着装置山に上る。デリックにて東側より西側へ移動運搬。書かれている。デリックというのは下記の図 1 のようなクレーンのことである。

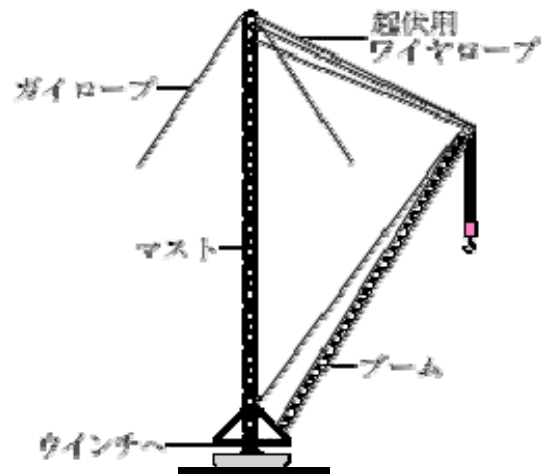


図 1

岡山天体物理観測所建設現場には、図 1 の様な大きなクレーンが据えられていた。写真 3 は現場に向かう車の前方後継であろう。写真 4～写真 15 がデリッククレーンでドーム東側から西側への移動の様子である。岡山天体物理観測所の 188 cm 望遠鏡ドームの周りには周回道路がついているが、この建設期には資材が置かれ、車での移動が出来ず、デリッククレーンで移動運搬を行ったようである。



写真(1)



写真(2)



写真(3)

1960 年 (昭和 35 年) 2 月 27 日に行われた作業は、蒸着装置の一部である、原水タンク、純粋タンクが並んだユニットの移動を行ったもので、188 cm 望遠鏡のドームには外壁がついていない状態で足場が組まれている。

写真(1)～(12)がこの一連の作業写真である。



写真(4)



写真(5)



写真(6)



写真(7)



写真(8)



写真(9)



写真(10)



写真(11)



写真(12)



写真(13)



写真(14)



写真(15)

写真(13)は工事現場の南の風景、写真(14)は工事現場東の風景である。写真(15)はドーム外壁のアルミニウム板の加工現場、写真(16)はアルミ板貼り付け作業風景である。



写真(16)



写真(17)



写真(18)

写真(17)はシャッターの巻き取りモーター架台取り付け工事、写真(18)はメッキ（蒸着）室スチールシャッシュ（スチールサッシ）取り付け工事、写真(19)は足場の上って36インチ（91cm）望遠鏡ドームを見る決死的撮影をしたものであると書かれている。



写真(19)

これらの写真は、多くの人の目には触れなかった写真であり、岡山天体物理観測所建設記録写真として保存すべきものと思う。すでに55年を経た写真である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp